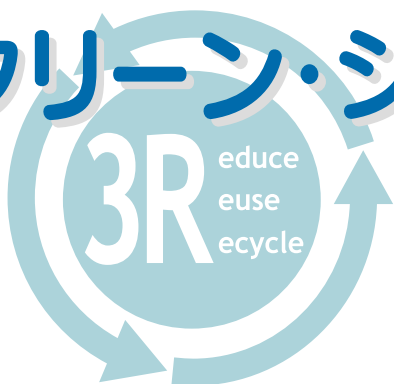




クリーン・ジャパン・ニュースレター



2009年12月発行 No.27

CJC 財団法人クリーン・ジャパン・センター

「資源循環技術・システム表彰」表彰式



平成21年度
リデュース・リユース・リサイクル
推進功労者等表彰式

CONTENTS

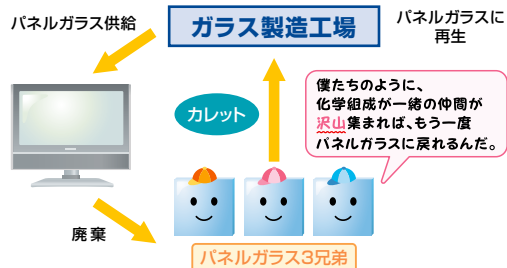
- CJCTピックス 2
 - 平成21年度「資源循環技術・システム表彰」表彰式を開催しました(10月2日)(於:科学技術館サイエンスホール) 2
 - 平成21年度「3R先進事例発表会」を開催しました 3
 - 平成21年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式を挙りました 3
- 20年度調査研究紹介 4
 - 銅系非鉄金属スクラップの高度分離・選別技術に関する調査研究 4
 - 薄型テレビ(液晶テレビ、プラズマテレビ)用パネルガラスリサイクルのためのオンライン組成分析技術適用に関するフィジビリティスタディ 6
- お知らせ 7
- 行政・政策動向【法令・制度】 8
- 3Rの進捗 8

薄型テレビとパネルガラス

備えあれば憂いなし・・・ 薄型テレビのリサイクルは、ガラスの再資源化が鍵
 ブラウン管式テレビに代り、急拡大している薄型テレビ。でも数年後には廃棄量が急増することが予測されます。しかし、パネルガラスのリサイクル技術は確立されていません。

2つのハードル

- 構造が微細かつ複雑で、ガラスのみの分離が難しい。
- 製品や製造時期により化学組成等の特性が違う。



CJCでは、テレビ本体から取り外したパネルガラスをライン上で、迅速・簡易に組成識別を可能にする画期的な手法の確立を目指し、フィジビリティスタディを行っています。(p6)



10月は3R (リデュース・リユース・リサイクル) 推進月間です。当センターの取組を報告いたします。

平成21年度「資源循環技術・システム表彰」表彰式を開催しました(10月2日) (於: 科学技術館サイエンスホール)



経済産業省高橋千秋経済産業大臣政務官、経済産業省西本淳哉大臣官房審議官及び中村崇審査委員長(東北大学多元物質科学研究所・教授)のご列席のもと「資源循環技術・システム表彰」表彰式を行いました。

この表彰制度は、当センターが経済産業省のご後援を得て実施しているもので、廃棄物の発生抑制、使用済み物品の再使用、再生資源の有効利用に資する優れた事業や取り組みを広く募集し表彰す

ることにより、その奨励・普及を図ることを目的としています。

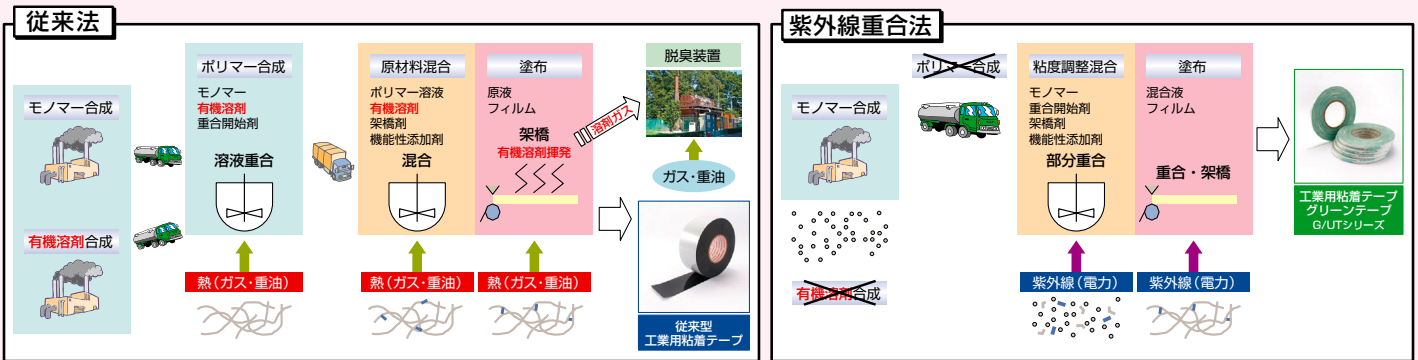
今年度は28件の応募があり、厳正な審査の結果、経済産業大臣賞1件、経済産業省産業技術環境局長賞4件、当センター会長賞11件及び奨励賞3件の19件について表彰いたしました。

経済産業大臣賞は、ソニーケミカル&インフォメーションデバイス株式会社 鹿沼事業所の「紫外線重合法による工業用粘着テープ製造工程での有機溶剤不使用化」が受賞しました。

<経済産業大臣賞受賞テーマの概要>

ソニーケミカル&インフォメーションデバイス株式会社 鹿沼事業所 「紫外線重合法による工業用粘着テープ製造工程での有機溶剤不使用化」

従来、アクリルモノマーを有機溶剤に溶解して粘着テープを製造していましたが、乾燥の際に環境負荷の高い有機溶剤ガス(VOC)を発生し、また大量の熱エネルギーを使用するという問題がありました。今回の方法は、アクリルモノマー、機能性添加剤及び重合開始剤を直接、紙やフィルム等に塗布し紫外線を照射することで一気に粘着テープを製造する方法で、有機溶剤の使用が大幅に削減され、紫外線照射に必要な電気エネルギーだけで製造が可能となるというものです。



受賞テーマ及び各受賞者は以下のとおりです。詳細は、当センターホームページ「平成21年度「資源循環技術・システム表彰」表彰概要をご覧下さい。 http://www.cjc.or.jp/modules/incontent/vosPages/CJC/cjc_syokai/pdf/system/H21_system.pdf

	番号	受賞企業名	申請テーマ名
I. 経済産業大臣賞	1	ソニーケミカル&インフォメーションデバイス株式会社 鹿沼事業所	紫外線重合法による工業用粘着テープ製造工程での有機溶剤不使用化
	1	みやざきバイオマスリサイクル株式会社	鶏ふん焼却によるバイオマス発電と資源循環
II. 経済産業省 産業技術環境局長賞	2	株式会社ジェイ・ライツ	「ランプtoランプ」を目指す蛍光管リサイクル事業
	3	新日本製鐵株式会社	鉄鋼プロセスにおける耐火物のリサイクル技術の開発
	4	バイオニア株式会社	ウイスキー樽材を再利用した「ピュアモルトスピーカーシリーズ」の開発・製造、販売の拡大・発展
	1	東海工業株式会社	ALC(軽量気泡コンクリート)廃材のリサイクルシステム
III. 財団法人 クリーン・ジャパン・センター 会長賞	2	パナソニック株式会社 ホームアプライアンス社	家電回収プラスチックの「ペレタイズレス」リサイクルシステムの開発
	3	株式会社神戸製鋼所	石灰灰の道路用資材としての有効利用
	4	トータルケア・システム株式会社	紙おむつリサイクルシステム
	5	鹿島道路株式会社 中四国支店/広島工業大学工学部都市建設工学科 広島市役所Q: Project Club/西川ゴム工業株式会社	廃ゴム乾留炭化物とゴミ熔融スラグのポーラスアスファルト舗装材への有効利用
	6	株式会社エコネコル	ASR(自動車シュレッダーダスト)再資源化による排出ダストの削減
	7	前田建設工業株式会社	自由形状の改良体を構築できる地盤改良(マルチジェット工法)による建設汚泥の削減
	8	株式会社氣工社	脱水ケーキリサイクル装置
	9	有限会社クスベ産業	間伐材等の有効利用による法面の広葉樹林化事業
	10	レンゴー株式会社	Aフルーツ段ボールからCフルーツ段ボールへの転換による廃棄物の発生抑制
	11	サッポロビール株式会社	樽生ビールサーバー管理システム「セパレサーバーシステム」
	IV. 奨励賞	1	王子製紙株式会社/ソニーイーエムシーエス株式会社
2		富士フィルム株式会社 吉田南工場	印刷用PS版、CTP版 生産時の端材アルミニウムのクローズドループリサイクル「PS to PS」システムの構築
3		株式会社ブリヂストン 磐田工場	OAローラ製造工程における間接副資材のリユース化



平成21年度「3R先進事例発表会」を開催しました (競輪補助事業)



10月2日、科学技術館サイエンスホールにおいて「3R先進事例発表会」を開催しました。同日開催の「資源循環技術・システム表彰」の表彰テーマの中から、経済産業省大臣賞、経済産業省産業技術環境局局長賞、財団法人クリーン・ジャパン・センター会長賞のテーマ16件についてご講演いただきました。また特別講演として経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課の横山典弘課長より「3R政策について」と、(独)理化学研究所植物科学研究センターの菊地淳ユニットリーダーより「生物資源活用型産業の創生ーC、H、Oの循環型社会の構築」の2件のご講演をいただきました。3Rの先進情報を発信できたのではと思います。



3R先進事例発表会▶



平成21年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式を挙行了しました (3R推進協議会)

リデュース・リユース・リサイクル (3R) 推進協議会 (会長:慶應義塾大学経済学部教授 細田衛士氏、事務局:財団法人クリーン・ジャパン・センター、財団法人日本環境協会) では、毎年度、3Rの推進に率先して取り組み、顕著な実績を挙げた個人・グループ・団体・学校・事業所等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」を実施しています。

今年度も全国から多数の応募があり、応募案件について審査委員会 (委員長:法政大学理工学部教授 木村文彦氏、他14名) で厳正な審査を行った結果、総理大臣賞1件、各大臣賞16件、協議会会長賞75件、計92件の受賞が決定し、10月23日 (金)、東京・霞ヶ関の東海大学校友会館で表彰式が挙行されました。

総理大臣賞、各大臣賞の受賞者は右表の通りです。会長賞を含む全受賞者の受賞概要は下記をご覧ください。



http://www.cjc.or.jp/modules/incontent/index.php?op=aff&option=0&url=CJC/3r_suishin/main01.html

平成21年度 リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 大臣賞受賞者	
内閣総理大臣賞 (1件)	積水ハウス株式会社
財務大臣賞 (1件)	サッポロビール株式会社 千葉工場
文部科学大臣賞 (4件)	長野県駒ヶ根市立赤穂東小学校
	長野県阿南町立阿南第二中学校
	群馬県立大泉高等学校
	東京都立つばさ総合高等学校
厚生労働大臣賞 (1件)	エスエス製薬株式会社 成田工場
農林水産大臣賞 (2件)	日本コカ・コーラ株式会社
	亀田製菓株式会社
経済産業大臣賞 (1件)	キンキ・パートナーズ株式会社
国土交通大臣賞 (6件)	前田道路株式会社 東京総合材工場 木質バイオマスコージェネレーション施設
	鹿島建設株式会社 関西支店 四条高倉工事事務所
	・本田技研工業株式会社 埼玉製作所 小川工場
	・株式会社日本設計
	・鹿島建設株式会社 関東支店 埼玉建築営業所 ホンダ小川新工場建築工事 (3者連名)
	大成建設株式会社 国道1号原宿交差点立体工事業務所
	株式会社竹中工務店 東京本店 丸の内パークビルディング・三菱一号館新築工事
	・地方独立行政法人岩手県工業技術センター
・岩手県コンクリート製品協同組合 (2者連名)	
環境大臣賞 (1件)	ながしまエコの会

20年度調査研究紹介

当センターが平成20年度に実施した調査研究事業を順次ご紹介いたします。

銅系非鉄金属スクラップの高度分離・選別技術に関する調査研究

(財団法人 機械システム振興協会委託) (競輪補助事業)



国内発生銅スクラップの約30%、市中回収スクラップに限定するとその約40%が中国等に輸出されている(2005年、世界金融危機以前の状況)。貴重な国内資源である銅系スクラップの国内資源循環システムを再構築し、海外への流出を防止することを目的として、国内で使用できる品質の銅を低コストで分離・選別する技術・システムについて調査研究した。

1. 廃家電製品からの銅の分離・選別技術に関する調査結果

家電リサイクル施設における家電4品目の手解体・手選別の状況及び残部を機械破碎した後の非鉄金属の分離・分別システムの現状を調査した結果、以下の課題が抽出された。

【課題】

- ①各プラントで回収されたミックスメタルの中から銅を分離・選別するためにはソーター式選別装置が必要であるが、個々のプラントのミックスメタル回収量はソーター式選別装置の処理能力に比較して少ない。
- ②各プラントでは手解体により配線くず類、モーター等の部品類を取り出しているが、個々のプラントでの回収量は少ないので、それらを機械破碎し、分離・選別システムで銅を回収するまでには至っていない。
- ③コンプレッサーのシェルの切断によって取り出されるコイルはもう少し手を加えることにより伸銅向けスクラップとして高度利用が可能。

【課題】

- ①自動車ガラを破碎する際に分離・選別されたミックスメタルから重液選別等によりアルミを取り出した後に残る“ヘビーミックスメタル”には銅が濃縮されているがまだ国内製錬所等に受け入れられる品位に達していない。
- ②ソーター式選別機で“ヘビーミックスメタル”から銅を分離・選別し、国内の銅製錬所に売却する先端的な事業者もいるがまだ少ない。その普及促進が必要。

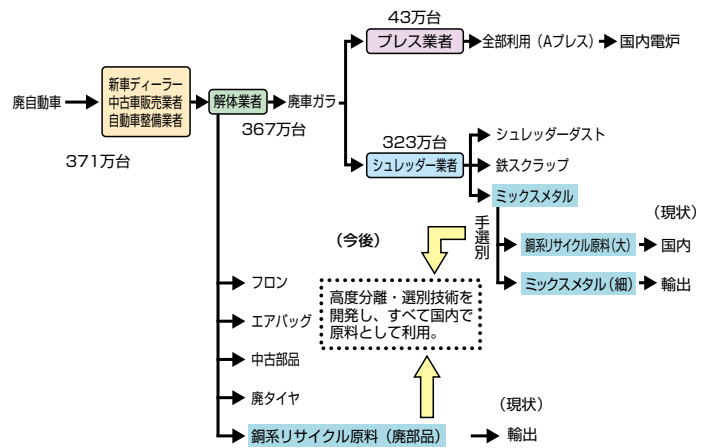


図 使用済み自動車と銅系リサイクル原料の流れ

3. 銅系非鉄金属スクラップの国内循環向上対策

【国内循環向上のためのシステム、方策】

- ①複数のプラントで回収されたミックスメタルを一カ所に集め、銅を高品位に選別する集合処理プラントの設置
 - a. 複数の家電リサイクル施設からのミックスメタルを集合して処理するプラントの設置

特に家電系リサイクル施設の場合、各社がそれぞれ自社で処理しようという傾向が強いが、各プラントでのミックスメタル発生量は少ないのでミックスメタルの高度選別装置を各家電リサイクルプラントがそれぞれ単独で持つことは効率が悪いと言える。複数の施設から出るミックスメタルを集めて処理量を増やし、設備を高効率運転することが重要である。
 - b. 使用済み家電、使用済み自動車の小型モーター等を専門に破碎する工程の設置

小型モーター類を専用破碎機等で粒度をコントロールして銅と鉄の破片にし、ミックスメタルの選別工程を通すことによって銅の国内循環が可能になる。
- ②自動車系ミックスメタル選別施設への家電系ミックスメタルの合流処理
- ③被覆付銅線を受け入れられるように銅製錬所、伸銅メーカー側での設備改良

2. 廃自動車から回収された銅系スクラップからの銅の分離・選別技術に関する調査結果

自動車解体施設における部品及びハーネス類の破碎前の取り外し状況並びに自動車破碎施設における非鉄金属の分離・選別の現状について調査した結果、以下の課題が抽出された。

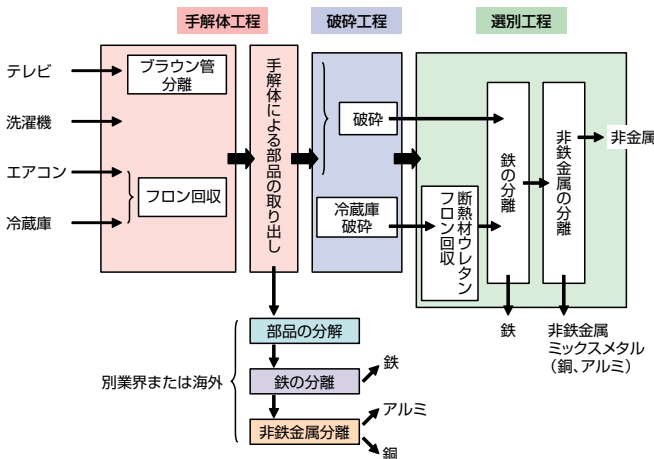


図 家電リサイクル工程の模式図



a. 伸銅メーカーの設備に被覆等付着のまま投入できる前処理設備の整備

原料投入前に銅線の被覆、絶縁紙、エナメル等付着のものを処理する選別機あるいは培焼炉等を設置すれば、被覆材等が付着のものでも使用可能になる。

b. 国内循環促進のためにナゲット化を經由しないハーネス類の回収システムの構築

銅の回収を最優先にしたシンプルな処理システムを構築し、培焼炉設備と結び付け、被覆材を培焼炉で焼却処理できるようにすれば、銅の国内循環が可能になる。

c. 外部加熱方式銅製錬技術設備の整備

外部加熱方式の溶解炉を使った製錬方式ではエネルギーバランス上の制約懸念から開放される。将来回収量が増加したときに備え、安定して原料を入手できる仕組みを検討し、回収銅の製錬に主眼を置いた新しい製錬設備の整備が必要である。

④新規技術の開発

a. 高品位銅の回収による伸銅での利用の拡大

高純度な銅が回収されている例があるが伸銅品への利用にはあと一歩のところまで止まっている。回収する銅の品位を上げて伸銅業界で受け入れられる様にする必要がある。

b. ソーター式選別装置の高性能化

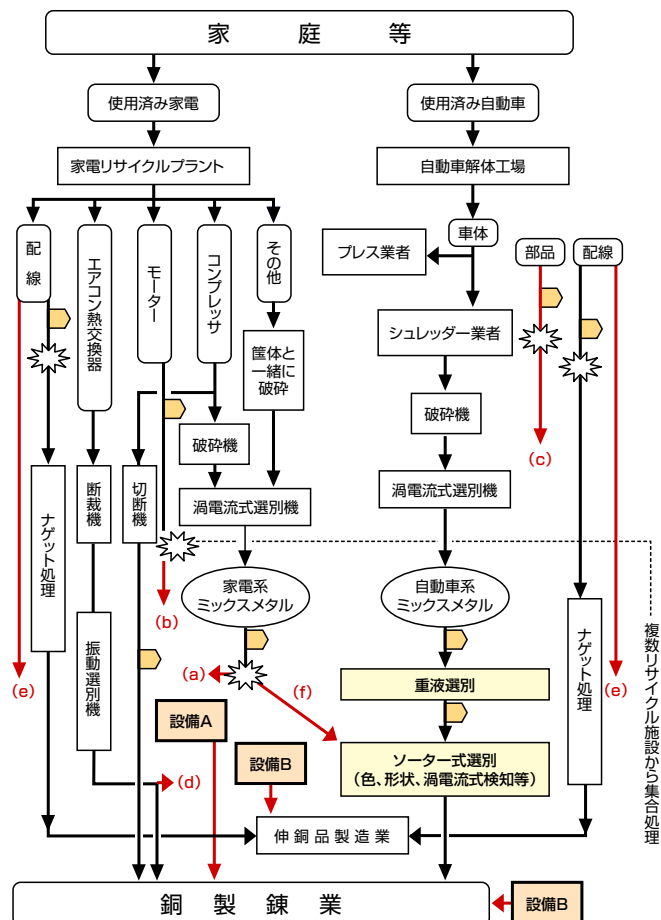
銅系非鉄金属（銅、黄銅、青銅等）は特有の色をしていることから、CCDカメラによる画像解析技術を応用した色彩選別機が目される。その他にも高周波（渦電流）式金属検知方式、X線による金属密度検知や蛍光X線分析方式等の金属（種）検知手段があり、それらを組合せて判断、あるいは同一装置で対象物により検知端を切り替えて検知する等様々な技術が開発されている。それらを普及させるには、検知システムの高度化、高速化による処理能力アップ、検知後の分離機構の改良（3種以上の金属の分離）や装置全体の低価格化のための技術開発が望まれる。

c. 全国に配置されている家電リサイクル工場でも対応できる小型装置の開発

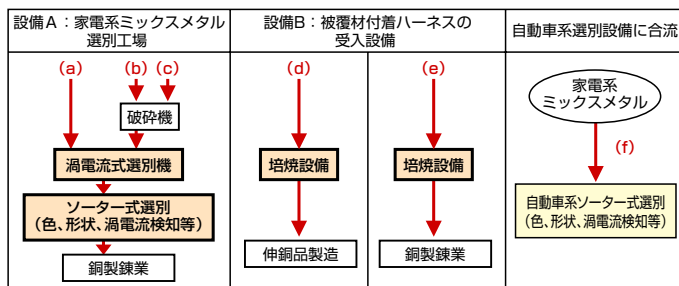
集合処理の推進の一方、小規模プラントでも採用できる安価な小型選別設備の開発が望まれる。

d. エコデザインの拡充

効率的な破碎・選別を行うには、対象物に含有される素材が単体分離しやすい状態にあることが望ましい。すなわち、製品設計時に active disassembly等の工夫がなされた設計がなされていれば、従前に比べてはるかに少ないエネルギーで素材ごとの単体分離が可能である。各種素材の分離回収には、なるべく有り姿で行うことが省エネルギー的・環境調和的であり、エコデザインが重要である。

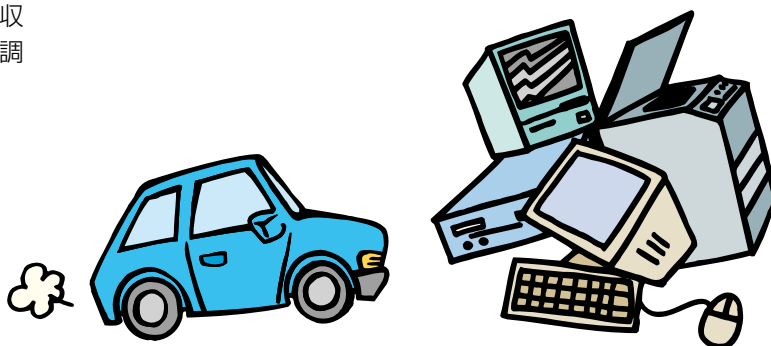


複数プラントの発生物を集合処理するための新規設備の導入



Legend for the diagrams: Red starburst = Domestic circulation stagnation; Yellow arrow = Output to overseas; Red arrow = New or enhanced route; Yellow box = Equipment to be strengthened; Orange box = New equipment to be installed.

図 家電・自動車リサイクルプラントからの銅含有部品、ミックスメタルの国内循環向上システム（構想）





薄型テレビ（液晶テレビ、プラズマテレビ）用パネルガラスリサイクルのためのオンライン組成分析技術適用に関するフィージビリティスタディ

（財団法人機械システム振興協会委託事業）（競輪補助事業）



薄型テレビ（液晶テレビ、プラズマテレビ）は、地上アナログ・テレビ放送が終了する平成23年（2011年）を控え、急速に普及しており、本年4月には家電リサイクル法の再商品化品目に追加されています。

しかし、主要な部品であるパネルガラスは確立されたリサイクル技術がないのが現状です。

元のパネルガラスに戻すことが有効なリサイクルですが、製品の年式、型式により組成が異なるため、リサイクル製品ガラスの品質の維持等のためには、使用済みのリサイクル用ガラスの組成により事前に識別して分別することが必須となります。

また、迅速・簡易の観点から、真空状態等特殊な装置内で行う測定でなく、大気中での測定が求められています。

そこで、テレビ本体から取り外したパネルガラスを、そのままの状態、ライン上で迅速・簡易に組成識別を可能にする画期的な手法の確立を目指し、フィージビリティスタディを行いました。

4種類のパネルガラス試料を使った基礎試験では、NMR、蛍光X線分析（スペクトル比較法とFP法定量分析）、小型シンクロトロン（蛍光X線分析）ともに、分析元素等に制限はあるがパネルガラス組成を識別できる精度が得られました。

この結果を元に、オンライン化技術開発の基礎試験計画をまとめました。

平成21年度についても、オンライン化技術開発のための基礎試験を行い、オンラインでパネルガラスの組成識別のできる分析技術の開発のためのフィージビリティスタディを継続いたします。

報告書の要旨は次のとおりです。

1. パネルガラスリサイクルの経済効果試算結果

	便益合計	3,531 (百万円)
① 埋立処分量削減便益		2,790 (百万円)
② 生原材料削減による資源の採取削減		690 (百万円)
③ ガラス溶解炉での省エネルギー		47 (百万円)
④ CO ² 排出抑制（溶解炉）		4 (百万円)

（パネルガラスのリサイクル量を国内生産量（12万t/年）の50%として計算）

2. 基礎特性の確認試験結果

（4種類の代表的パネルガラス試料で試験を行った）

I. NMR（東北大学で実施）

Na, B, Al（3元素）について満足できる精度を得られた。

II. 蛍光X線分析（市販）（日本電子（株）で実施）

(i) スペクトル比較法；スペクトルマッチングソフトによる相関係数でガラスの種類を見分けることができた。

(ii) FP法定量分析；Na～Ba（14元素）について真空雰囲気です満足できる精度を得られた。

III. 小型シンクロトロン（蛍光X線分析）（（株）光子発生技術研究所で実施）

Zn～Ba（6元素）について満足できる精度を得られた。

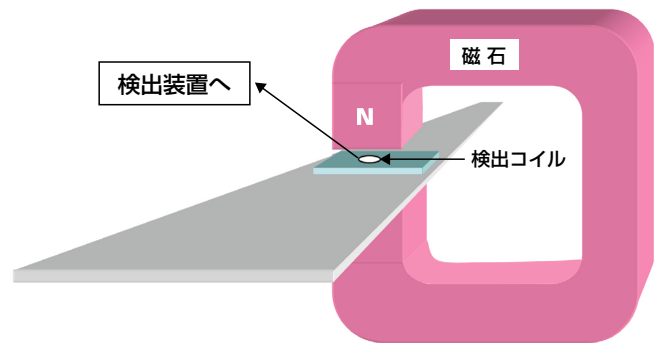


図1. NMR技術を使用してパネルガラスをオンライン識別する場合の測定イメージ図

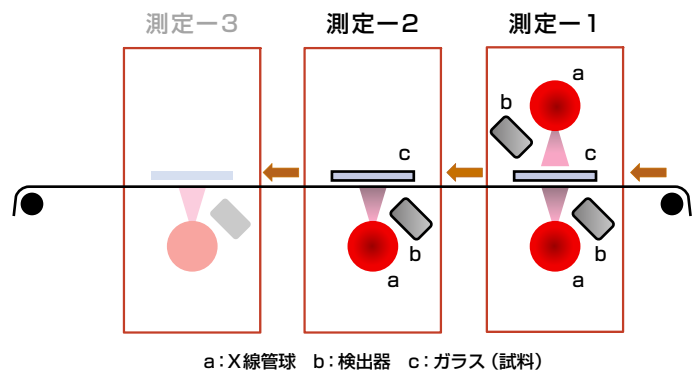


図2. 蛍光X線分析技術を使用してパネルガラスをオンライン識別する場合の測定イメージ図

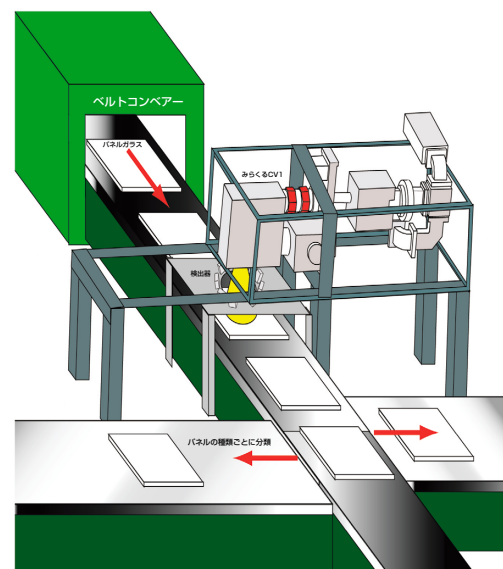


図3. 小型シンクロトロン（蛍光X線分析技術）を使用してパネルガラスをオンライン識別する場合の測定イメージ図



お知らせ

環境・3R関連資料閲覧サービスのご紹介（競輪補助事業）



当センターでは、廃棄物の3Rを中心とした環境問題に関する資料の閲覧サービスを行っています。一般に手に入りにくい専門資料から環境・3Rに関する入門書まで多数の資料を取りそろえており、どなたでも無料でご利用になれます。

環境ビジネスに関する情報収集や環境学習等にご活用下さい（この閲覧サービスは、競輪補助事業「循環型社会における3Rに関する情報収集提供」の一環で実施しています）。

保有資料について

- 調査研究報告書：当センター及び他の研究機関、業界団体等の報告書、学会報文等
- 行政資料：国・地方自治体の廃棄物行政資料、審議会資料・答申・ガイドライン等
- 書籍：環境・廃棄物・資源問題に関する単行本、技術解説書、法令集、法制度・施策解説書等
- 定期刊行物：環境・廃棄物・資源問題に関する専門誌、専門新聞
- 主要な企業の環境報告書
- 環境・廃棄物・資源問題に関するビデオ、DVD、CD-ROM
- 海外の環境関連機関の刊行物、等

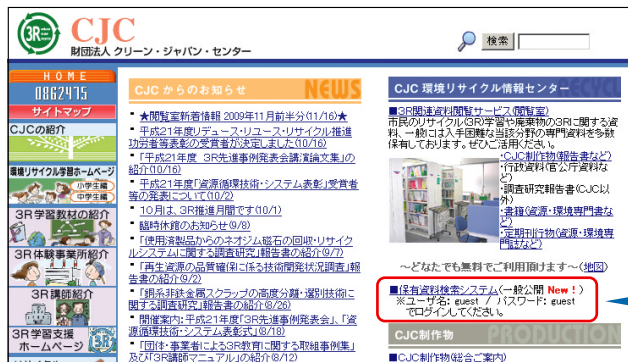


利用時間

午前9：45～12：00、午後1：00～5：00（土・日・祝祭日及び年末年始は休館）

保有資料検索システムについて

保有資料は当センターホームページ (<http://www.cjc.or.jp>) の「保有資料検索システム」で検索できます（下図参照）。この検索システムはどなたでも無料でご利用になれます。



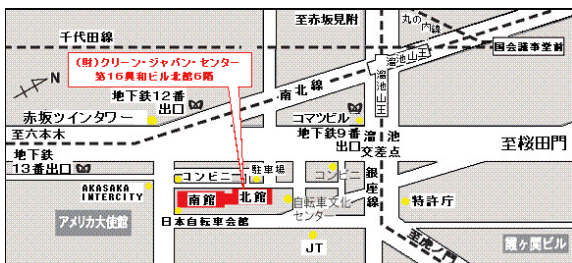
資料検索システムはこちらからログインできます（どなたでも無料でご利用になれます）

新着資料情報のメール配信について

新着資料情報のメール配信を行っています（月2回）。配信をご希望の方は下記問い合わせ先にお申し込み下さい。

場所のご案内・お問い合わせ

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-20 第16興和ビル北館6階
財団法人クリーン・ジャパン・センター内 環境リサイクル情報センター
電話：03 (6229) 1031 FAX：03 (6229) 1243



交通

- 東京メトロ銀座線・南北線
「溜池山王駅」（9番出口）徒歩3分。
- 東京メトロ丸の内線・千代田線
「国会議事堂前駅」もご利用いただけます。





行政・政策動向【法令・制度】

■ 廃棄物処理制度専門委員会報告書

環境省の中央環境審議会は、廃棄物・リサイクル部に設置された廃棄物処理制度専門委員会では、廃棄物の適正処理やリサイクルを進めるため、1) 排出事業者責任の強化・徹底、2) 廃棄物処理業の許可制度を整備するとともに優良化を推進、3) 廃棄物処理施設設置許可制度と最終処分場対策の整備、4) 不法投棄等の対策を強化・徹底、5) 適正処理困難物対策の推進を検討を行ってきましたが、10月に報告書案をまとめ、パブリックコメントを募集(12月1日まで)、近々にも中央環境審議会の答申を得て、法改正が行われるものと予想されます。

論点は多岐にわたりますが、その主なものは次のとおりです。

【排出事業者責任】

- ・産廃が委託契約書に沿ってきちんと処理されているかどうか定

期的に確認することを、排出事業者と中間処理業者に義務づけるべき

- ・建設廃棄物に関しては元請業者を一律に排出事業者とみなすことで、排出事業者の明確化をすべき
- ・許可施設以外で処理を行う排出事業者にも、帳簿の作成と保存を求めていく方針

【廃棄物処理業許可制度の整備】

- ・中間処理における保管期間と保管数量に関する基準の策定が必要
- ・優良な産廃処理業者が排出事業者から選ばれるように、現在の優良性評価制度の枠組みを再構築して、認定基準の見直しやインセンティブの拡充すべき

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=11727>

■ 関係省庁で肥料原料安定確保戦略会議 リン資源の安定的確保対策検討

安定的な農業生産に不可欠な肥料原料の将来にわたる確保が懸念される中、関係省庁は「肥料原料安定確保戦略会議」を発足させ、本格的な検討を行っています。

戦略会議では、年内に論点整理と今後の検討の方向性を取りまとめ、2010年から具体的な対応について協議する方針です。肥料原料のうち、化学肥料の原料となるリンなどは国内において枯渇資源と

され、全量を海外からの輸入に依存し、一方、リン鉱石などは将来的な供給量の懸念から、産出国による輸出規制なども始まっており、安定確保に向けて海外からの安定確保に向けた取り組みや、国内における廃棄物などからの回収など総合的な対応が迫られています。

http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryu/senryaku_kaigi/index.html

3Rの進捗

一般廃棄物の排出及び処理状況等

— 最終処分量が前年度比の6.8%の減少 —

環境省から、平成19年度における全国の一般廃棄物(ごみ及びし尿)の排出及び処理状況等に関する状況についての調査結果(平成19年度実績)が公表されました。

これによると、ごみ総排出量は、5,082万トンで、前年度比2.3%減。1人1日当たりのごみ排出量は1,089グラムで前年度比2.3%減少しました。

総資源化量(再生利用量)は、1,030万トンで前年度比1.0%の微増、一方、最終処分量は635万トンで前年度比の6.8%の減少となっています。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=11837>

平成20年度のスチール缶リサイクル率が88.5%

スチール缶リサイクル協会が発表した平成20年度(2008年度)のスチール缶リサイクル率は、88.5%で、経済産業省の産業構造審議会ガイドラインである「85%以上」の目標を8年連続で達成しています。

スチール缶リサイクル率は、2006年度(18年度)は、88.1%、2007年度(19年度)85.1%と、最近3年間では、年度ごとに3ポイント変動していますが、缶スクラップの一部がシュレッダー処理されて、缶スクラップ以外の規格として流通したことにより、20年度よりシュレッダー処理された量の一部を把握したことも変動した要因となっています。

スチール缶リサイクル協会:

<http://www.steelcan.jp/recycle/index.html>

全国産業廃棄物連合会 ～産業廃棄物を含む溶融スラグに関する品質管理マニュアル～

全国産業廃棄物連合会は、「産業廃棄物を含む溶融スラグに関する品質管理マニュアル」を取りまとめ公表しました。業界指針(業界自主基準)で、安定した品質の、JIS規格に準拠した産廃由来スラグを製造し、廃棄物の受け入れから溶融スラグの製造・出荷管理に至るまでの品質を適正に管理することを目的に作成されたものです。

2006年7月には、一般廃棄物由来の溶融スラグのJIS規格が制定されましたが、産業廃棄物由来の溶融スラグはJISの対象外であるため、同連合会では「産業廃棄物由来溶融スラグJIS化に係る調査報告書」をまとめるなど、産業廃棄物に由来するスラグに関する調査を進め、今回の公表に至りました。合わせて、産業廃棄物を含む溶融スラグデータ集が掲載されています。

<http://www.zensanpairen.or.jp/disposal/05/index.html#06>

クリーン・ジャパン・ニュースレター No.27

【発行】財団法人クリーン・ジャパン・センター

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目9番20号 第16興和ビル北館6階
<http://www.cjc.or.jp/>

電話:03-6229-1031 FAX:03-6229-1243

【発行日】2009年12月